

出席については実習途中 C.16 参照。

A. RefWorks (レフワークス) とは？

レポートや卒業研究では数百を超える文献リストの管理をしないてはならない。この膨大なデータをすべて手作業で管理するのはたいへんな手間である。筑波大学は所属する学生や研究者がこれらの文献情報を管理するために「RefWorks」を契約している。RefWorks を使えば文献リストの作成や管理を簡単に行うことができる。

B. RefWorks のアカウント作成とログイン

RefWorks を使うにはまず登録が必要である。

- 1 附属図書館ウェブサイトのトップ(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>)左上のメニューから「RefWorks」を選んでクリックする。
- 2 ログイン画面が表示されたら「個人アカウントの作成」をクリックし、必要な項目（名前、ログイン名、パスワード、メールアドレスを空欄に入力。ユーザータイプは「学部生」、関連分野は「そのほか」を選択）を入力、「上記のコードを入力して下さい」と書かれた空欄に、その上に画像で表示されている文字列を入力して「登録する」をクリックする。
- 3 登録が成功すると、「おめでとうございます！」と書かれた使い方のページが開かれる。
- 4 登録したメールアドレスにログイン情報が届く。

RefWorks のアカウントは複数持つことができる。ログイン名とパスワードを統一認証（附属図書館ページでログインする際のもの）と同じにすると、附属図書館ページにログインしていれば RefWorks には自動的にログインできるようになる。つまり一緒にしておいた方がなにかと便利である。

C. 基本的な使い方

RefWorks を使って文献リストを作ってみよう。

データの取り込み

初めて使うときには、RefWorks には文献データが入っていない。まずはデータベースなどで探した文献のデータを取り込むことが必要になる。

例 (CiNii 使用)『図書館雑誌』vol.100, no.12 に掲載された、逸村裕の論文「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」の背景と展開”を検索し、文献リストを作成する。

1. RefWorks にログインした状態で、別画面で CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) を立ち上げ、「逸村裕」を検索。リストが画面に表示されたら
2. 該当するレコードの下に表示される、オレンジ色の「Tulips-L(Test)」というアイコンをクリックする。
3. 次に表示される画面から「文献管理：RefWorks」というアイコンをクリックする。
4. 新しいウィンドウが開き、しばらくすると「インポートが完了しました-1 件が取り込まれました」と表示される。
最近インポートしたレコードフォルダを通覧するをクリックする
5. 「最近インポートされたレコード」として、取り込んだ書誌事項の表題、著者、ソース等が表示される。ここで上のタブ「フォルダ」にカーソルを合わせると表示される「新規作成」をクリックする。
6. 「新しいフォルダ名：□」の□の部分に半角英数文字で名前を入力する。たとえば“0906itsumura”等と入れて、Enter キーを押すか「OK」をクリックする。

取り込んだデータはメールなどと同じように、フォルダに分けて管理することができる。フォルダを複数作成して、使い分けることも可能。後ほどやっていると良い。

7. 5 の画面が再び表示される。必要なレコード ID の□にチェックを入れる。「フォルダへ追加」をドラッグし、“0906itsumura”を選ぶ。
8. 「選択したレコードを 0906itsumura フォルダに追加してもよろしいですか?と表示が出るので OK を選ぶ。
9. 自動的に 5 の画面に戻り、「1 件のレコードがフォルダ 0906itsumura へ移動されました」という赤字の表示が右上に出る。
10. 9 の表示を確認したら同じ画面で上のタブから「参考文献」をクリックする。
11. 「出力フォーマット」をドラッグし、「出力フォーマット管理ツールへアクセスする」を選択する。
12. 左の「出力フォーマットを選択する」の一覧の中から「SIST02」を選び、「お気に入りへ追加」をクリックする。右の「お気に入り」一覧に「SIST02」が追加されたのを確認した後、「前ページに戻る」をクリックする。
13. 「出力フォーマット」をドラッグし SIST02 を選択する。
14. 「レコード一覧から生成」にチェックが入っていることを確認し、ファイル形式を「Word for Windows」、対象のレコードを「フォルダ内のレコード」として、6 につくったフォルダを選択する。「参考文献の生成」をクリックすると、文献リストが作られる。
14. 「1 件のレコードから参考文献が生成されました」と表示が出て、Word ファイルを開くウィンドウがポップアップする。そのまま開くか、保存してから開く。
15. 生成された文献リストが SIST02 に則ったものかどうか確認する。
16. ここまでできたら TA に確認してもらおう。これが本日の出席となる。

現在の RefWorks は一部の書誌事項には不完全な対応しかできていない。クレイム中。修正部分は自分で打ち込む。

D. 本日の課題

1. 日本語の雑誌記事 (CiNii を使用した課題)

以下の文献の書誌事項を CiNii で検索し、RefWorks にインポートした上で、(1)結果を SIST02 で出力する。(2)その結果足りない書誌事項や間違っただけの書誌事項がある場合は補足して完全版にする (補足修正する点があれば空欄でよい)、(3)どこに欠陥があったか指摘する。(4)苦労した点やわからなかった点があれば記述する。

課題い 『現代の図書館』 vol. 42, no. 1 に掲載された、土屋俊の論文「学術情報流通の最新の動向」

課題ろ 『Library and information science』 no. 55 に掲載された種市淳子、逸村裕の論文「エンドユーザーの Web 探索行動:短期大学生の実験調査にもとづく情報評価モデルの構築」

2. 海外の雑誌記事 使い方が異なる応用編

海外文献についても CiNii のようなデータベースから書誌事項を取り込むことができる。また、海外の学術雑誌の多くは第 4 回の演習で扱った『Nature』のように電子ジャーナル化されており、この場合には文献本文が表示されているページから直接書誌事項を取り込むこともできる。例えば第 4 回演習で扱った『Nature』2005 年 2 月 3 日号 433 巻 445 ページの記事の場合、

- ・ 記事本文のページ (<http://www.nature.com/nature/journal/v433/n7025/full/433445a.html>) へアクセスする (PDF の方を開かないこと)。
- ・ 画面右側の「Export citation」をクリック。
- ・ ポップアップが開くので「ファイルを保存する」を選択する。
- ・ RefWorks で画面左側の「レコード」タブから「インポート」を選択。「インポートフィルター/データソース」を「RIS Format」、「データベース」を「<複数のデータベース>」、「次のフォルダへインポートする」を” 0906itsumura” とし、「次のテキスト形式ファイルからインポートする」にチェックを入れて「参照」をクリックし、先ほど保存したファイルを選んで「インポート」をクリックする。
- ・ 「インポートが完了しました」と表示されるので「最近インポートしたレコードフォルダを通覧する」を選択すると、書誌事項が表示される。

日常的に論文を利用するようになるとそのたびにデータベースで検索して RefWorks に取り込むのは億劫になる。上記のような方法であれば普段は書誌事項をファイルに出力しておくだけにとどめ、あとでまとめて RefWorks に登録するといったこともできるようになる。

課題は

第4回演習の課題10～12の文献について書誌事項をRefWorksにインポートした上で、(1)結果をSIST02で出力する。(2)その結果足りない書誌事項や間違っただ書誌事項がある場合は補足して完全版にする(補足修正する点がなければ空欄でよい)、(3)どこに欠陥があったか指摘する。(4)苦勞した点やわからなかった点があれば記述する。

以下はOption

課題に(選択自由)早くに終わったら【C12出力フォーマット】で他の書式もいろいろやってみよう。また「F. その他のRefWorksの使い方」に挙げたマニュアル等を参考にRefWorksの色々な使い方を試してみよう。

E. 課題提出

課題いろは(余裕があればにもやってみる)の回答+今日の授業の感想と課題をやるのにかかった時間(時間の長短は成績に影響しない)を記して提出。

課題結果の記述方法に工夫すること。(表にする・・・等)

締切:木曜日組は6月17日(水)午後5時;金曜日組は6月18日(木)午後5時

提出先 学務レポートボックス

課題名:木曜日組は【情報基礎実習0611】、金曜日組は【情報基礎実習0612】

書式: A4いつもの通り

F. その他のRefWorksの使い方

基本的な使い方以外にも、RefWorksには様々な使い方がある。例えば、ひとつの書誌レコードを複数のフォルダに入れることや、間違っただ重複して取り込んだレコードを自動で探すことなどもできる。

Wordファイルとしての出力のほか、RefWorksではHTML形式、リッチテキスト形式など、参考文献リストのファイル形式をいくつか選ぶことができる。Macユーザ向けの機能もある。あらかじめ指定されたタグを文中に打ち込むことで、文献の引用注を自動的に文章の中に埋め込むこともできる。

詳細はRefWorksのマニュアルも必要に応じて参考にすること。日本語版のマニュアルは以下等にある。

- ・附属図書館web版(基礎的なもの)

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/RefWorksuserguide.pdf>

- ・大塚図書館作成版(人文系、法律研究者向けのよりマニアックな使い方が載っている)

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/otsuka/refworks/>

OPACから取り込んだり、図書や電子情報源を扱うこともできる。これはまた来週。